



鏡石町

防災マップ

安全で安心なまちづくり



避難場所に指定されている鳥見山公園



町消防団模擬火災訓練の様子



〈保存版〉

町民の皆様へ

町民一人ひとりが防災の主役

近年、地球温暖化など自然環境が大きく変わり、世界規模で自然災害が多く発生しています。あの未曾有の大災害、平成23年3月11日の「東日本大震災」以降も、大雨洪水、竜巻及び土砂災害などの自然災害が各地で発生し、その被害は甚大になるばかりです。

このような自然災害が、いつ起きても対処できるように、私たちは日頃からしっかりとした防災意識を持ち、対策を考えておく必要があります。

町では、皆様の安全を守るために、災害に強い安全・安心な町づくりに努めているところですが、安全な町づくりは、行政機関の活動だけでは決して十分とは言えません。

町民の皆様一人ひとりが、防災の重要性を認識され、積極的に各種訓練に参加していただくことが大切であり、それが自分の身を守る糧となるはずです。

この「鏡石町防災マップ」は、様々な災害に対し、事前に備えることで、日頃の心構えや予測不可能な災害を最小限にとどめるよう、イラストなどでわかりやすく説明しています。

是非、家庭内の目に付くところに常備していただき、今後の災害予防対策に役立てていただければ幸いです。

平成27年3月

鏡石町長 遠藤 栄作

索引

町民の皆様へ・索引	1	わが家の「防災・緊急情報」メモ	10
特別警報をご存知ですか？	2	学校・ライフライン・行政機関連絡先など	11
風水害対策	3	避難場所・避難所一覧	12
災害の種類	4	鏡石町 全図	13・14
洪水ハザード情報について	5	詳細図 No.1	15・16
地震対策	6	詳細図 No.2	17・18
火災対策	7	詳細図 No.3	19・20
わが家の防災対策&チェック	8	詳細図 No.4	21・22
非常時持出品の準備&チェック	9		

特別警報をご存知ですか？

特別警報は、大規模な災害の発生が切迫していることをお知らせする新しい警報です。普段からの備えと早め早めの行動があなたや身近な人の命を守ります。

特別警報の発表基準

現象の種類	基準	
大雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、若しくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合	
暴風	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により	暴風が吹くと予想される場合
高潮		高潮になると予想される場合
波浪		高波になると予想される場合
暴風雪	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合	
大雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合	

表中の「数十年に一度」の現象に相当する降水量等の客観的な指標は気象庁ホームページで公表しています。

大津波警報などを特別警報に位置づけます

現象の種類	基準
津波	高いところで3メートルを超える津波が予想される場合（大津波警報を特別警報に位置づける）
火山噴火	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が予想される場合（噴火警報（噴火警戒レベル4以上）及び噴火警報（居住地域）を特別警報に位置づける）
地震（地震動）	震度6弱以上の大きさの地震動が予想される場合（緊急地震速報（震度6弱以上）を特別警報に位置づける）

特別警報が発表されたら

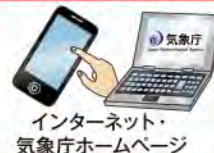
- ・尋常でない大雨や津波等が予想されています。
- ・重大な災害が起こる可能性が非常に高まっています。
- ・ただちに身を守るために最善を尽くしてください。

命を守るために情報の収集に努めてください

特別警報は、自治体や報道機関を通じて伝えられます。テレビやインターネット、自治体から発信される情報の収集に努めてください。



テレビ・ラジオ



インターネット・気象庁ホームページ



防災無線・広報車

- ・「特別警報が発表されない」は「災害が発生しない」ではありません。
- ・これまでどおり注意報、警報、その他の気象情報を活用し、早めの行動をとることが大切です。
- ・普段から避難場所や避難経路を確認しておきましょう。

※気象庁HPより一部を抜粋して掲載

「特別警報」については、気象庁HPに詳細が掲載されていますので、ご確認ください。

気象庁 〒100-8122 東京都千代田区大手町1-3-4
電話：03-3212-8341 FAX：03-6689-2917（耳の不自由な方向へ）

気象庁ホームページ
<http://www.jma.go.jp>

特別警報について
<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/tokubetsu-keiho/>

風水害対策

大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。
ふだんから気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。



大雨情報をキャッチ！ こんなときのわが家の安全対策。

大雨注意報・ 警報の 発表基準

大雨注意報

大雨によって災害が起こるおそれがあると予測される場合。

- ・1時間に雨量が30mm以上
- ・土壌雨量指数基準87以上

大雨警報

大雨によって重大な災害が起こるおそれがあると予測される場合。

- ・1時間に雨量が50mm以上
- ・土壌雨量指数基準116以上

上記に併せて、洪水注意報・洪水警報が発表されます。

雨の強さと降り方

(1時間雨量:mm)

10以上~20未満	20以上~30未満	30以上~50未満	50以上~80未満	80以上~
雨の音で話し声がよく聞き取れない。	ワイパーを速くしても見づらい。側溝や下水、小さな川があふれる。	山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。	マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。	雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要。

風の強さと吹き方

(平均風速:m/秒)

10以上~15未満	15以上~20未満	20以上~25未満	25以上~
風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	風に向かって歩けない。転倒する人もいる。	しっかりと身体を確保しないと転倒する。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。	立ってられない。屋外での行動は危険。樹木が根こそぎ倒れはじめる。

台風

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。
台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

大きさ	風速15m/s以上の半径	強さ	最大風速
大型(大きい)	500km以上800km未満	強い	33m/s以上44m/s未満
超大型(非常に大きい)	800km以上	非常に強い	44m/s以上54m/s未満
		猛烈な	54m/s以上

集中豪雨

集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して降る豪雨で、梅雨の終わりごろによく発生します。
発生の予測は比較的困難で、中小河川の氾濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

- ラジオやテレビなどの気象情報に注意する。
- 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 町や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 飲料水や食料を数日分確保しておく。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- 非常時持出品を準備しておく。
- 危険な地域では、いつでも避難できるよう準備をする。

つねに気象情報には、
注意して
おきましょう！



地下道(アンダーパス)に注意！

アンダーパスとは、道路や鉄道など立体交差する場合、その下を通る地下道をいいます。大雨・洪水などにより、アンダーパスの道路は真っ先に浸水してしまいます。地域のアンダーパスの場所を把握し、もしもの時に備えて迂回路を想定しておきましょう。普通自動車の場合、約30cmの浸水で走行困難になります。

災害の種類

大雨などにより、川の水量の増加や地中にしみこんだ水分などが起因となり、大きな災害に発展する場合があります。事前にその災害のメカニズムを理解し、身近に起こりえる災害に対応しましょう。

川の氾濫

雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水氾濫」と、街中の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水氾濫」の2タイプがあります。

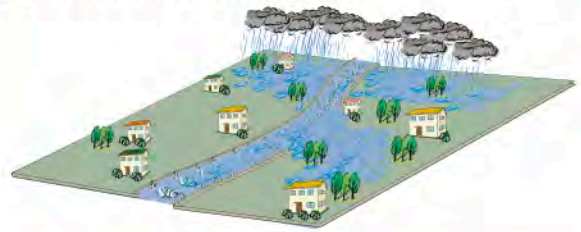
内水氾濫

その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはけきれずに溜まっておきる洪水。川の水位が何mに達すれば警報を出すなどの対応が難しいため、注意が必要。



外水氾濫

大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を越える。あるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれておきる洪水。氾濫が起きると一気に水かさが増しますので、最大の注意が必要。



土砂災害

土砂災害警戒情報が発表されていなくても、ふだんと異なる状況「土砂災害の前兆」に気付いた場合には、直ちに周りの人と安全な場所へ避難するとともに、役場などの関係機関に連絡してください。日ごろから危険箇所や避難場所・避難経路を確認しておくことも重要です。

がけ崩れ

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。



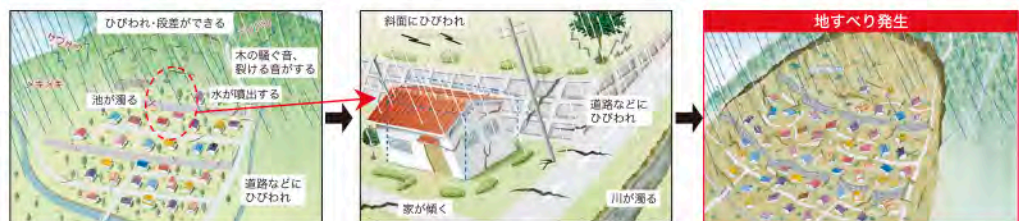
土石流

山腹・川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20~40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。



地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土塊量が多いため、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。



※上記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるというものではありません。ふだんと違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

洪水ハザード情報について

水防法に基づき、阿武隈川の洪水ハザード情報をマップに掲載しています。
以下の情報を参考に、洪水時における対応についてあらかじめ確認しておきましょう。

1 説明

- この「鏡石町防災マップ」で使用しているハザード情報は、鏡石町に關係する1河川(阿武隈川)が、大雨によって氾濫した場合、洪水が想定される区域とその浸水の深さを示したものです。浸水の目安は「浸水ランクの目安」でご確認ください。
- 雨の降り方によっては、想定とは異なる浸水深となったり、地図に表示された浸水区域以外でも浸水することがあります。
- 川が氾濫しない場合でも、低い土地などは浸水被害(床上・床下浸水など)が起こる場合があります。十分注意しましょう。
- 浸水ランクの目安

5m 以上の区域	
2.0~5.0m 未満の区域	2階の軒下まで浸水する程度
1.0~2.0m 未満の区域	1階の軒下まで浸水する程度
0.5~1.0m 未満の区域	大人の腰まで浸水する程度
0~0.5m 未満の区域	大人の膝まで浸水する程度



2 洪水情報の種類

洪水の危険性が高まった際に発表される情報

洪水注意報(気象庁)

- 洪水によって災害がおこる恐れがある場合、その旨を注意して行う予報。

洪水警報(気象庁)

- 洪水によって災害がおこる恐れがある場合、その旨を警告して行う予報。

指定河川洪水予報など

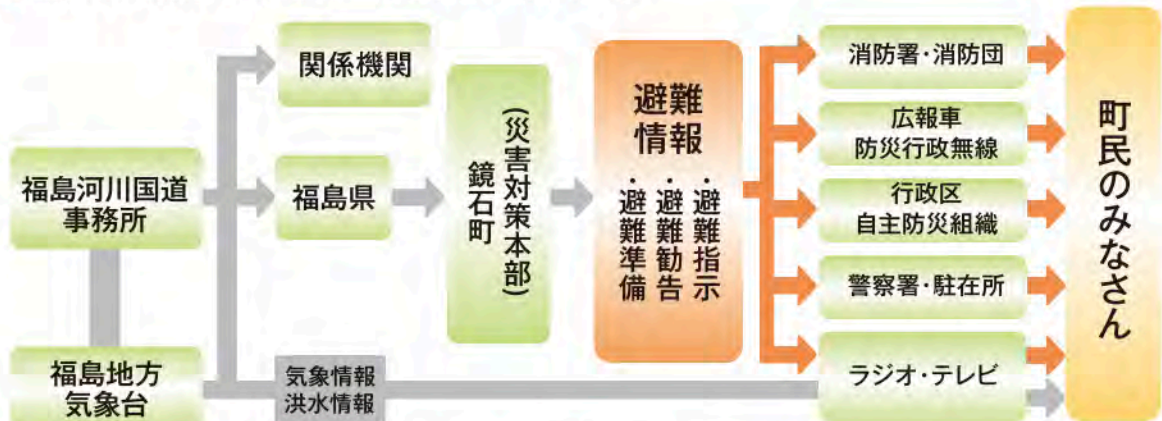
- 阿武隈川については、福島県が気象庁の情報や水位観測所の情報をもとに、河川水位の危険度の予測をし、「洪水予報」を発表します。



※水位は、玉城橋水位観測所(玉川村小高)によるもの

3 洪水情報の伝達ルート

- 気象の異常に対して、下図の伝達ルートで皆さんへお知らせします。



情報がなくても、異常気象(雷雨や異常な降雨)を感じたときには、避難の準備が必要です。危険を感じたときには、速やかに避難しましょう。

地震対策 地震発生!そんなときどうする

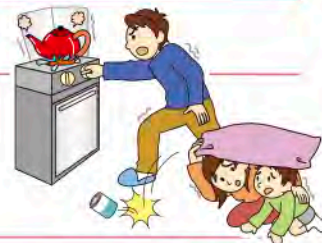
地震発生時の時間経過別行動マニュアル

地震発生

1~2分

最初の大きな揺れは約1分間

- まず、身を守る安全確保 (手近な座布団などで頭を保護)
- すばやく火の確認 ガスの元栓、コンセント
- 大きな揺れの場合は、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所に一時避難する



揺れがおさまったら

- 火元を確認 火が出たら、落ち着いて初期消火
- 家族の安全を確認 倒れた家具の下敷きになっていないかを確認
- 靴をはく 家の中はガラスの破片が散乱。靴や厚手のスリッパをはく
- 避難するときは、屋根瓦・ブロック塀・自動販売機等に注意



みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

隣近所に声をかけよう

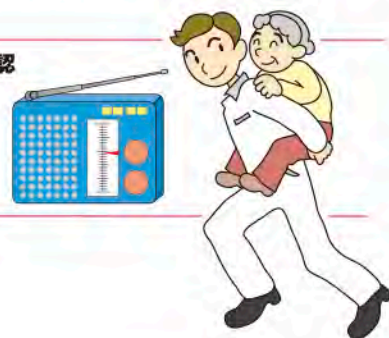
- 災害弱者の安全確保 隣近所で助け合う
- 行方不明者はいないか
- ケガ人はいないか

出火防止 初期消火

- 初期消火
- 消火器を使う
- バケツリレー 風呂の水はため置きをしておく
- 漏電・ガス漏れに注意 電気のブレーカーを下ろす・ガスの元栓を閉める
- 余震に注意

ラジオなどで正しい情報を

- 大声で知らせる
- 救出・救護を
- 防災機関、自主防災組織の情報を確認
- デマにまどわされないように
- 避難時に車は極力使用しない
- 電話は緊急連絡を優先する



協力して消火活動、救出・救護活動を

- 水、食料は蓄えているものでまかなう 3日間の飲料水と食料の備蓄をしておく
- 災害・被害情報の収集
- 無理はやめよう
- 助け合いの心が大切
- 壊れた家に入らない

屋内にいた場合

家の中

- 揺れを感じたら、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所へ避難する。
- 火の確認はすみやかに(コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに)。
- 乳幼児や病人、高齢者など災害弱者の安全を確保する。
- 裸足で歩き回らない(ガラスの破片などでケガをする)。

デパート・スーパー

- カバンなどで頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れる。柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。

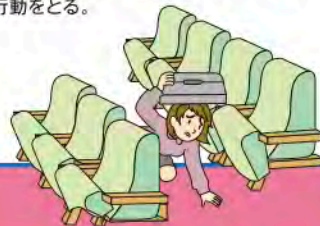


集合住宅

- ドアや窓を開けて避難口を確保する。
- 避難にエレベーターは絶対に使わない。炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。

劇場・ホール

- カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示を聞く。あわてずに冷静な行動をとる。



屋外にいた場合

路上

- その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などに避難する。
- 近くに空き地などがないときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
- ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
- 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。



車を運転中

- ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両等の通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- 揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- 避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。

海岸付近

- 高台へ避難し津波情報をよく聞く。注意報・警報が解除されるまでは海岸に近づかない。

電車などの車内

- つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。
- 途中で止まっても、非常コックを開けて勝手に車外へ出たり、窓から飛び降りたりしない。
- 乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。



火災対策 火災発生!そんなときどうする

初期消火の3原則

1人で消せるだろうと考えず、隣近所に火事を知らせ、すみやかに119番通報を。初期消火で火事を消せなかったら、すばやく避難しましょう。

1

2

早く知らせる

- 「火事だ」と大声を出し、隣近所に援助を求める。声が出なければやかんなどを叩き、異変を知らせる。
- 小さな火でも119番に通報する。当事者は消火に当たり、近くの人に通報を頼む。

早く消火する

- 出火から3分以内が消火できる限度。
- 水や消火器だけで消そうと思わず、座布団で火を叩く、毛布で覆うなど手近のものを活用する。



火元別初期消火のコツ

油なべ

あわてて水をかけるのは厳禁。消火器がなければ濡らした大きめのタオルやシーツを手前からかけ、空気を遮断して消火を。

石油ストーブ

真上から一気に水をかけて消火(斜めにかけてと石油が飛び散って危険)。石油が流れてひろがっていくようなら毛布などで覆い、その上から水をかけて消火を。

衣類

着衣に火がついたら転げまわって消すのも方法。髪の毛の場合なら衣類(化繊は避ける)やタオルなどを頭からかぶる。

風呂場

風呂場からの出火に気づいても、いきなり戸を開けるのは禁物。空気が室内に供給されて火勢が強まる危険がある。ガスの元栓を締め、徐々に戸を開けて一気に消火を。

電気製品

いきなり水をかけると感電の危険が。まずコードをコンセントから抜いて(できればブレーカーも切る)消火を。

カーテン・ふすま

カーテンやふすまなどの立ち上がり面に火が燃え広がったら、もう余裕はない。引きちぎり蹴り倒して火元を天井から遠ざけ、その上で消火を。

3

早く逃げる

- 天井に火が燃え移った場合は、速やかに避難する。
- 避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを閉めて空気を絶つ。



消火器の使い方

粉末・強化液消火器の場合



安全ピンに指をかけ上に引き抜く。



ホースをはずして火元に向ける。



レバーを強く握って噴射する。

消火器のかまえ方

- 風上に回り風上から消す。火災にはまともに正対しないように。
- やや腰を落して姿勢をなるべく低く。熱や煙を避けるように構える。
- 燃え上がる炎や煙にまどわされずに燃えているものにノズルを向け、火の根元を掃くように左右に振る。



火災予防が一番!!

火災報知機の設置義務化

消防法の改正により、住宅用火災報知機の設置が義務付けられました。

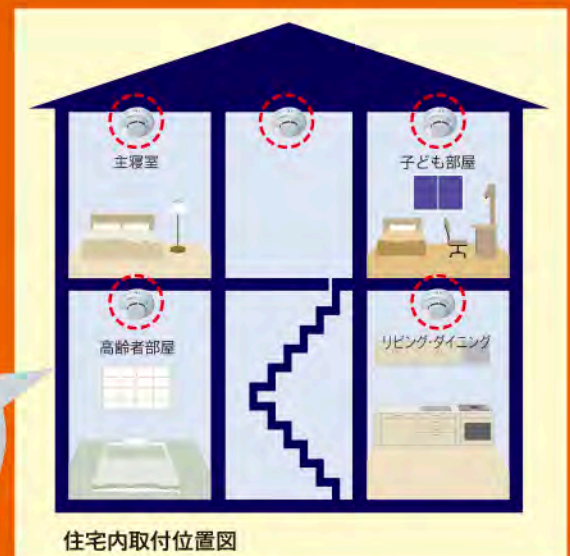
火災による死傷者を無くすためにも設置しましょう。

火災報知機の設置場所

- 寝室…すべての寝室(子ども部屋や高齢者の部屋など就寝に使われている場合は対象となります)への設置が必要です。
- 階段…寝室のある部屋の階段の天井などへの設置が必要です。
- 台所…台所への設置も必要です。



警報機



住宅内取付位置図

わが家の防災対策&チェック

家の中の安全対策

事前に準備出来ているか、チェック✓しましょう。

1

家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる

部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換えする。



2

寝室、子どもやお年寄りのいる部屋には家具を置かない

就寝中に地震に襲われると危険。子どもやお年寄り、病人などは逃げ遅れる可能性がある。



3

家具の転倒を防ぐ

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定する。また、金具や固定器具を使って転倒防止策を万全に。



4

安全に避難するため、出入口や通路にものを置かない

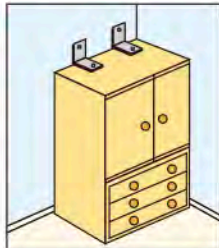
玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいろいろなものを置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。



家具の転倒、落下を防ぐポイント

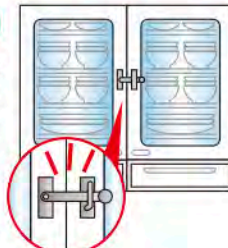
タンス・本棚

L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。



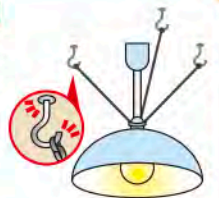
食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。



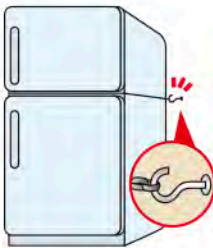
照明

チェーンと金具を使って数箇所止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。



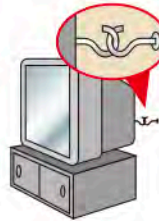
冷蔵庫

2ドアの場合は、扉と扉の間に針金などを巻いて、金具で壁に固定する。



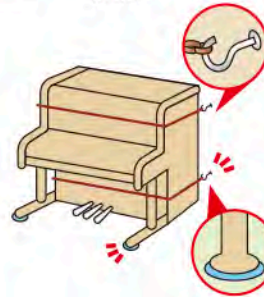
テレビ

できるだけ低い位置に固定して置く(家具の上はさける)。またテレビの上には水槽や金魚鉢を置かない。



ピアノ

本体にナイロンテープなどを巻きつけ、取りつけた金具などで固定する。脚には、すべり止めをつける。



家の周囲の安全対策

事前に準備出来ているか、チェック✓しましょう。

屋根

不安定な屋根のアンテナや、屋根瓦は補強しておく。

ベランダ

植木鉢などの整理整頓を。落ちる危険がある場所には何も置かない。

窓ガラス

飛散防止フィルムをはる。



ブロック塀・門柱

土中にしっかりと基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは危険なので補強する。ひび割れや鉄筋のさびも修理する。

プロパンガス

ボンベを鎖で固定しておく。

非常時持出品の準備&チェック

いざというときすぐに持ち出せるように、日ごろから準備・点検しておきましょう。

非常時持出品(例)

事前に準備出来ているか、チェック✓しましょう。

携帯ラジオ



- ラジオ
- 電池(多めに用意)

救急医療品



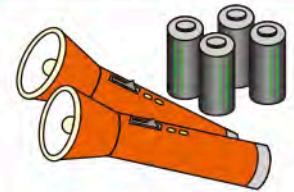
- 常備薬
- 絆創膏
- 傷薬
- 包帯
- 風邪薬
- 胃腸薬
- 鎮痛剤

貴重品



- 現金
- 預貯金通帳
- 印鑑
- 免許証
- 健康保険証
- 権利証書

懐中電灯



- 懐中電灯(出来れば一人にひとつ)
- 電池(多めに用意)

非常食品



火を通さずに食べられるもの、食器など

- カンパン
- 缶詰
- 非常用食品
- ミネラルウォーター
- 缶切り
- 栓抜き
- 紙皿
- 紙コップ
- 水筒

その他



- 衣類(下着・上着など)
 - タオル
 - 生理用品
 - 粉ミルク
 - 離乳食
 - 紙おむつ
 - ウェットティッシュ
 - カップ
 - ヘルメット
 - ライター
 - ラップフィルム
 - 防災マップ(本書)
- (止血や食器にかぶせて使う)

非常時用備蓄品(例)

災害復旧までの数日間(最低3日)を生活できるようにチェック✓しましょう。

飲料水



- 飲料水としてペットボトルや缶入りのミネラルウォーター(1人1日3リットルを目安に)
- 貯水した防災タンクなど

非常食品



- お米(缶詰・レトルト・アルファ米も便利)
- 缶詰・レトルト食品
- 梅干し・調味料など
- ドライフーズ・チョコレート・アメ(菓子類など)

燃料



- 卓上コンロ
- ガスボンベ
- 固形燃料

その他



- 生活用水(風呂・洗濯機などに貯水)
- 毛布・寝袋・洗面用具・ドライシャンプーなど
- 調理器具(なべ・やかんなど)
- バケツ・各種アウトドア用品など

非常時持出品は定期的に点検を!

いざというときに支障がないように、食品類の賞味期限や持出用品の不備を定期的に点検しましょう。

避難生活が長引くときに便利なもの

携帯トイレ、使い捨てカイロ、裁縫セット、ガムテープ、地図、さらし、筆記用具(マジックなど)スコップなど。



阪神・淡路大震災で役に立ったもの

ポリタンク、ホイッスル、予備の眼鏡・補聴器、ビニールシート、新聞紙、補助用具としてロープ、スコップ、パールやハンマー、のこぎり、車のジャッキなど。

非常時持出品は、使用するとき支障のないように、定期的に点検しておきましょう。とくに食品や飲料水の賞味期限はまめにチェックし、賞味期限がせまったものから順に入れ替えておきましょう。

わが家の「防災・緊急情報」メモ

非常時・緊急時に連絡してほしい方や、利用してもらいたいわが家の情報です。
災害時に救助の方や、緊急時に救急隊・医療機関・町に情報を提供します。

氏名		電話	
住所			

避難場所	
家族が離ればなれになった時の避難場所	

家族構成 連絡先	氏名	生年月日	電話(携帯・会社・学校)	住所	メモ	

家族の 緊急情報・ 救急メモ	氏名	血液型	持病・アレルギー	常備薬	かかりつけ医療機関	

【メモ】※書ききれなかった内容や、知ってほしい情報(介護情報・救急隊員への伝言など)をお書きください。

緊急時 連絡先	氏名	間柄	電話	住所	メモ	

災害用伝言ダイヤルの使い方

災害用伝言ダイヤルとは？

NTTでは、災害発生時に、被災地への通話がつながりにくい状況の場合、被災地内の安否等の情報を音声で録音、再生する「災害用伝言ダイヤル」を設置します。

伝言の録音	171-1-0000-00-0000 (被災地の方の電話番号)	伝言保存期間	録音してから48時間
伝言の再生	171-2-0000-00-0000 (被災地の方の電話番号)	伝言蓄積数	1電話番号あたり10伝言まで
伝言内容	1伝言あたり30秒以内	利用可能電話	一般電話(プッシュ回線、ダイヤル回線)、 公衆電話、携帯電話(一部除く)等

避難場所・避難所とは？



避難場所

災害発生後の一時避難場所として、学校のグラウンド・公園・公共施設などを指定しています。

避難所

災害による家屋の倒壊などで、居住場所を確保できなかった人たちの収容保護を目的として、物資の運搬・集積・炊事・宿泊などの利便性を考慮したうえで、学校・公民館・公共建築物などを指定しています。

避難が必要になったときにはまず「避難場所」へ、その後は「避難所」へと状況に応じて速やかに行動出来るように心がけましょう！

AEDとは？

AED(自動体外式除細動器)



※このマークが設置の印です

突然心肺停止状態に陥ったとき、心臓に電気ショックを与えて、正常な状態へ戻す、誰にでも簡単に取り扱える医療機器です。機器によって多少の操作方法の違いはありますが、AEDから音声によって操作・作業案内が流れますので、その指示にそって取扱いが可能です。

こんなときにAED!

●意識がない ●息・せき・体の動きがない など。

避難所以外でも設置している場合も多く、日常の生活圏内の「AED」設置場所も確認しておきましょう！

学校・ライフライン・行政機関連絡先

学校関係機関

名称	電話番号	住所	その他の情報
鏡石町立第一小学校	62-2006	中央1	
鏡石町立第二小学校	62-2033	豊郷中238	
鏡石町立鏡石中学校	62-2015	旭町158	
福島県立岩瀬農業高等学校	62-3145	桜町207	

ライフライン関係機関

名称	電話番号	住所	その他の情報
東北電力(株)須賀川営業所	0120-175-366	須賀川市南町201	東北電力コールセンター
NTT東日本-東北 福島支店	024-531-7974 受付時間:平日9:00~17:30	福島市山下町5-10	時間外は「113」(固定電話) 「0120-444113」(携帯)
鏡石町上下水道課	62-2119,2348	旭町336	

行政関係機関

名称	電話番号	住所	その他の情報
鏡石町役場	62-2111	不時沼345	
須賀川地方広域消防組合消防本部	76-3111	須賀川市丸田町153	
須賀川消防署 鏡石分署	62-4511	旭町160	
須賀川警察署	75-2121	須賀川市八幡町19-7	
須賀川警察署 鏡石駐在所	62-2012	本町207-3	

避難所・一時避難場所・広域避難場所・公共施設AED設置 一覧

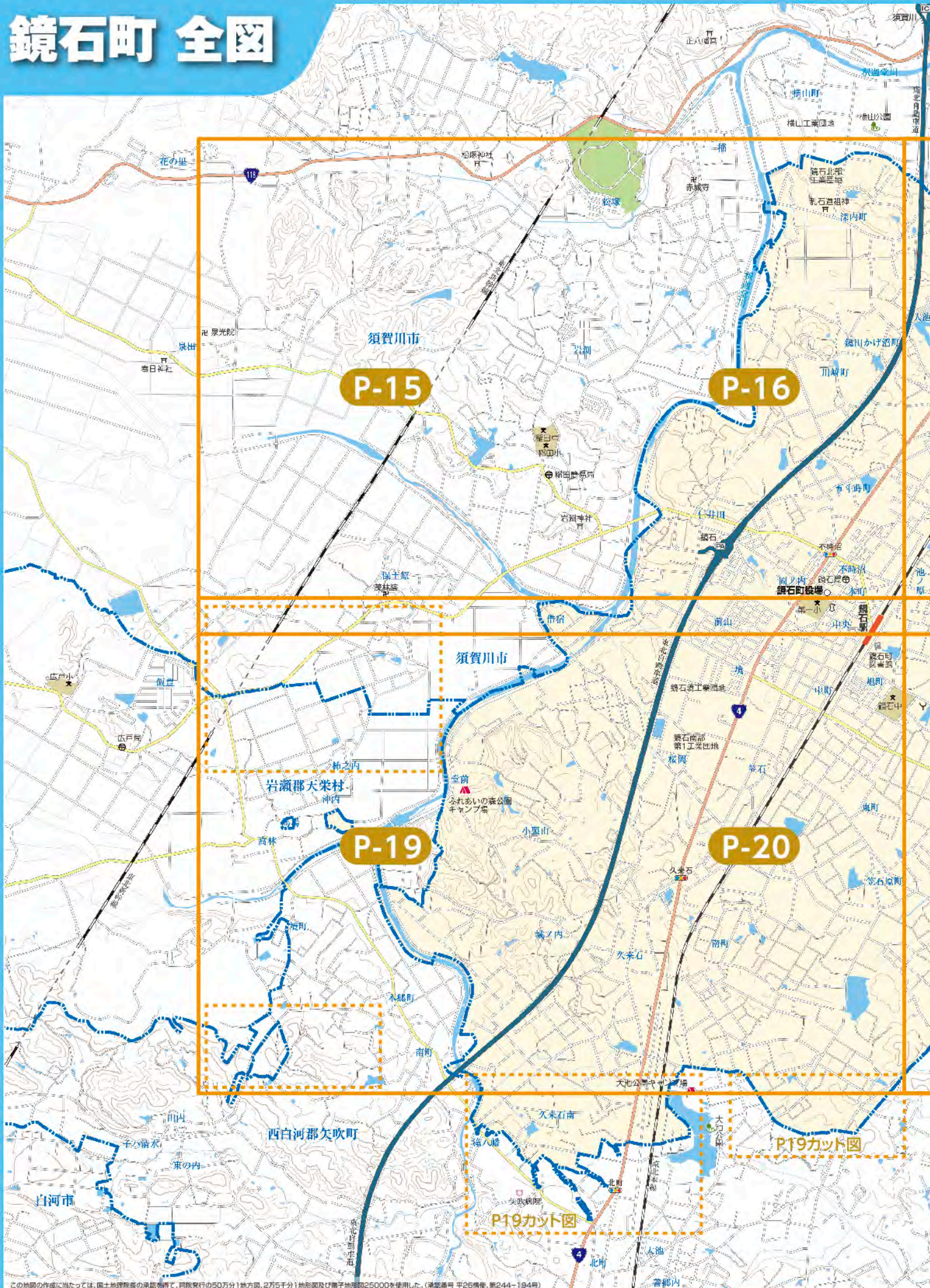
名 称

平成27年3月

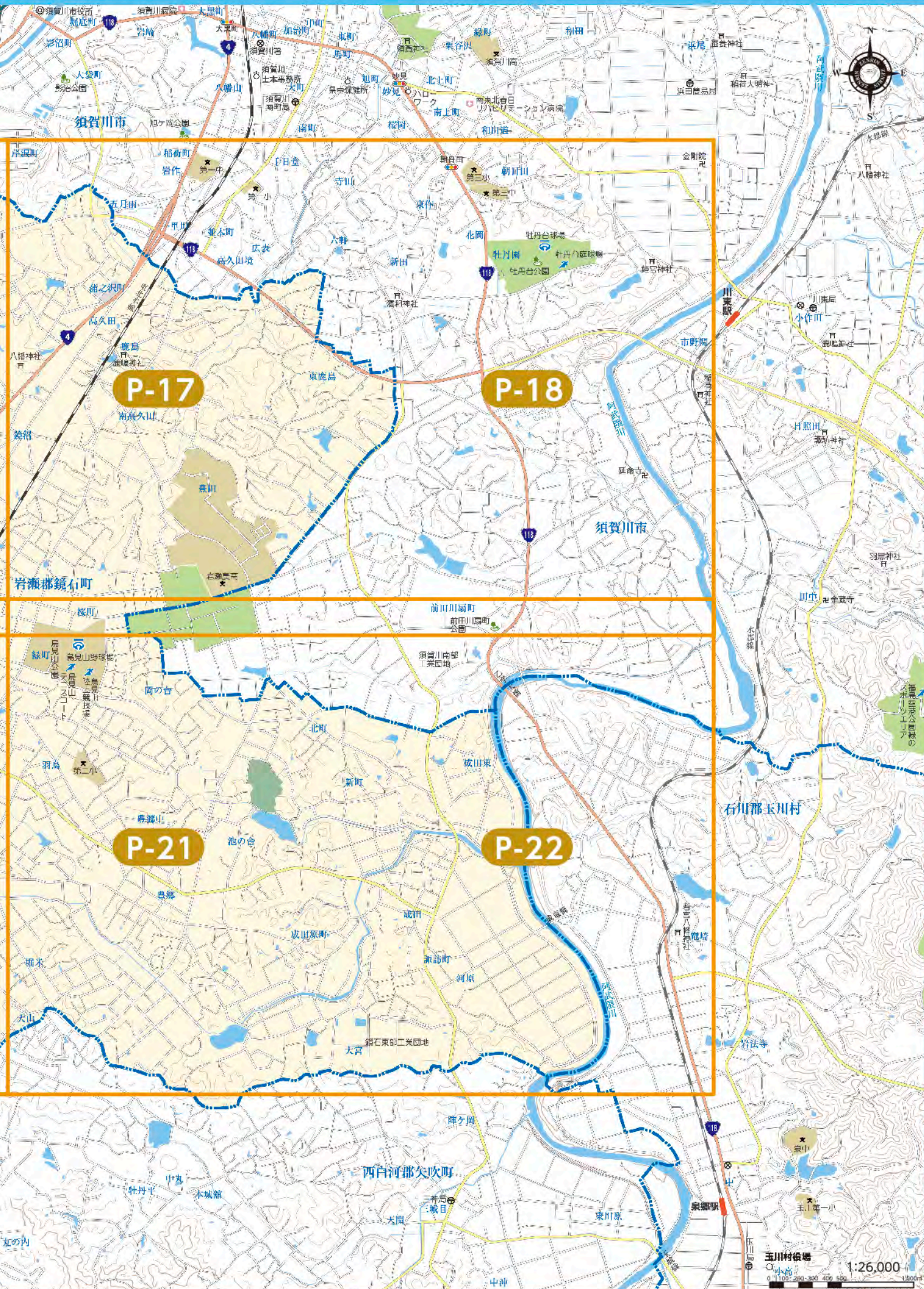
No.	名 称	所在地	電話番号	掲載頁	避難所	一時 避難場所	広域 避難場所	AED 設置箇所
1	久来石転作センター	久来石281-10		P20	●	●		
2	笠石杉林児童遊園	東町460		P20		●		
3	笠石児童遊園(笠石多目的集会所)	中町672		P20		●		
4	笠石防災センター	中町380		P20	●			
5	鏡石幼稚園	中町271-4	62-3772	P20	●	●		●
6	第一小学校	中央1	62-2006	P16/P20	●	●	●	●
7	三区不時沼児童遊園	不時沼194		P16		●		
8	不時沼公園	岡ノ内172		P16		●	●	
9	仁井田多目的集会所	岡ノ内229-9		P16	●	●		
10	鏡田転作センター	鏡沼62		P17	●	●		
11	鏡田大池団地児童遊園	大池50		P16/P17		●		
12	鏡田(鏡沼)児童遊園	鏡沼161-3		P16/P17		●		
13	鏡石保育所	本町43-6	62-2513	P16/P17	●	●		●
14	高久田多目的集会所	高久田107		P17	●	●		
15	鳥見山公園	緑町199	62-6527・62-7636	P21		●	●	
16	鳥見山体育館	緑町217	62-6527・62-7636	P21	●			●
17	鏡石中学校	旭町158	62-2015	P20/P21	●	●	●	●
18	町公民館	旭町159	62-2031	P20/P21	●			●
19	第二小学校	豊郷中238	62-2033	P21	●	●	●	●
20	成田保健センター	成田343		P22	●	●		
21	前山公園	前山352		P20		●		
22	さかい集会所	前山316		P16/P20	●			
23	児童ふれあい交流館	中央1	94-7890	P16/P20	●			
24	鏡石町役場	不時沼345	62-2111	P16				●
25	勤労青少年ホーム	中央59	62-2115	P16/P20				●
26	老人福祉センター	旭町161	62-2629	P20/P21				●
27	コミュニティー・センター(鏡石駅)	中央245	62-2014	P16/P20				●
28	鏡石児童館	本町207-5	62-7278	P16/P20				●
29	鳥見山陸上競技場	緑町199	62-7636	P21				●
30	町民プール「すいすい」	緑町199	62-1045	P21				●
31	町構造改善センター	旭町175	62-3681	P20/P21				●
32	町図書館	旭町440-6	62-1288	P20				●

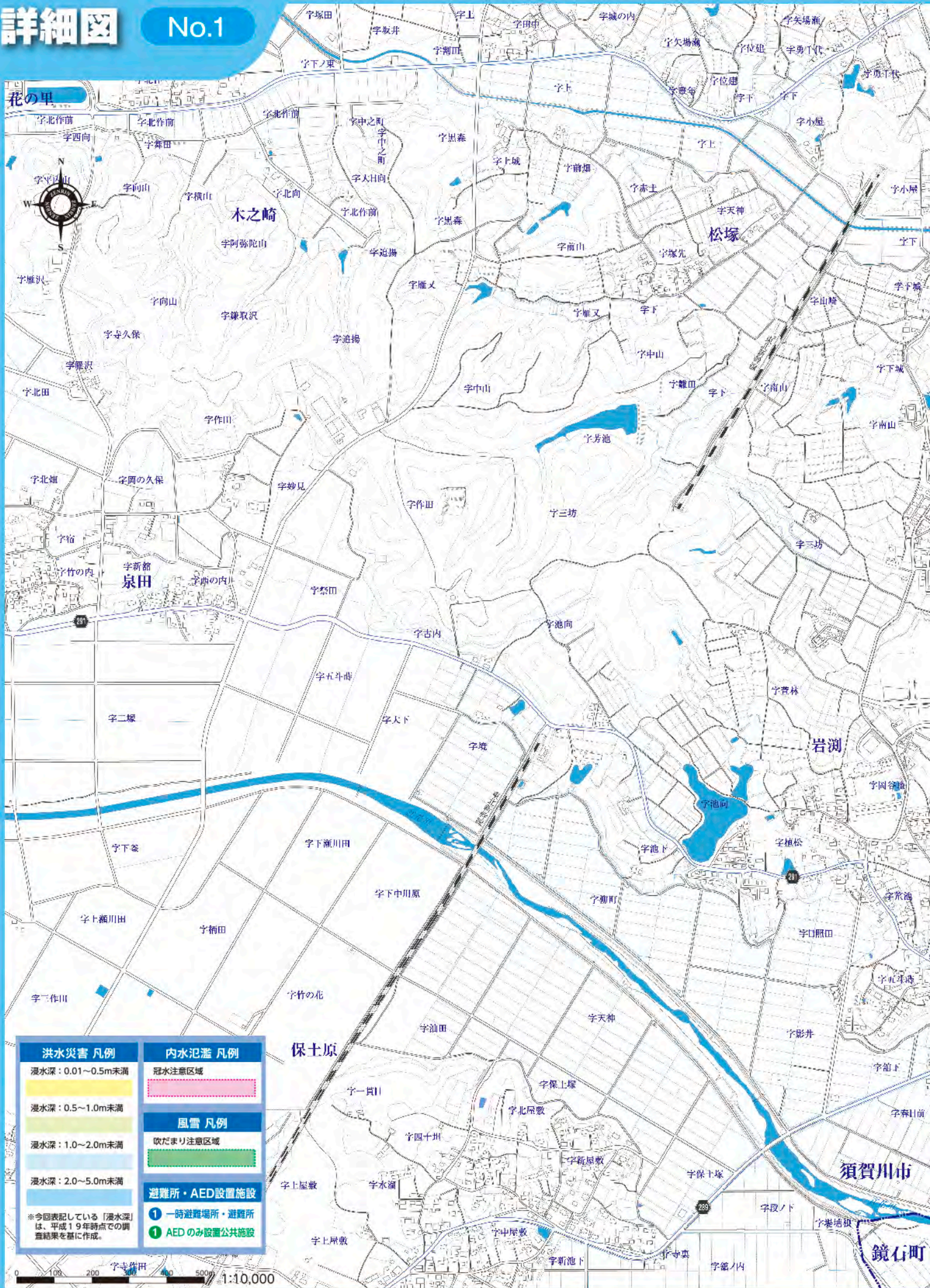
※避難所は、災害の規模及び避難所の被災状況等によって、上記に指定されていない地区集会所等においても、一時避難所として使用できるものとする。
 緑色番号の施設は、避難所指定の無いAED設置施設となります。

鏡石町 全図



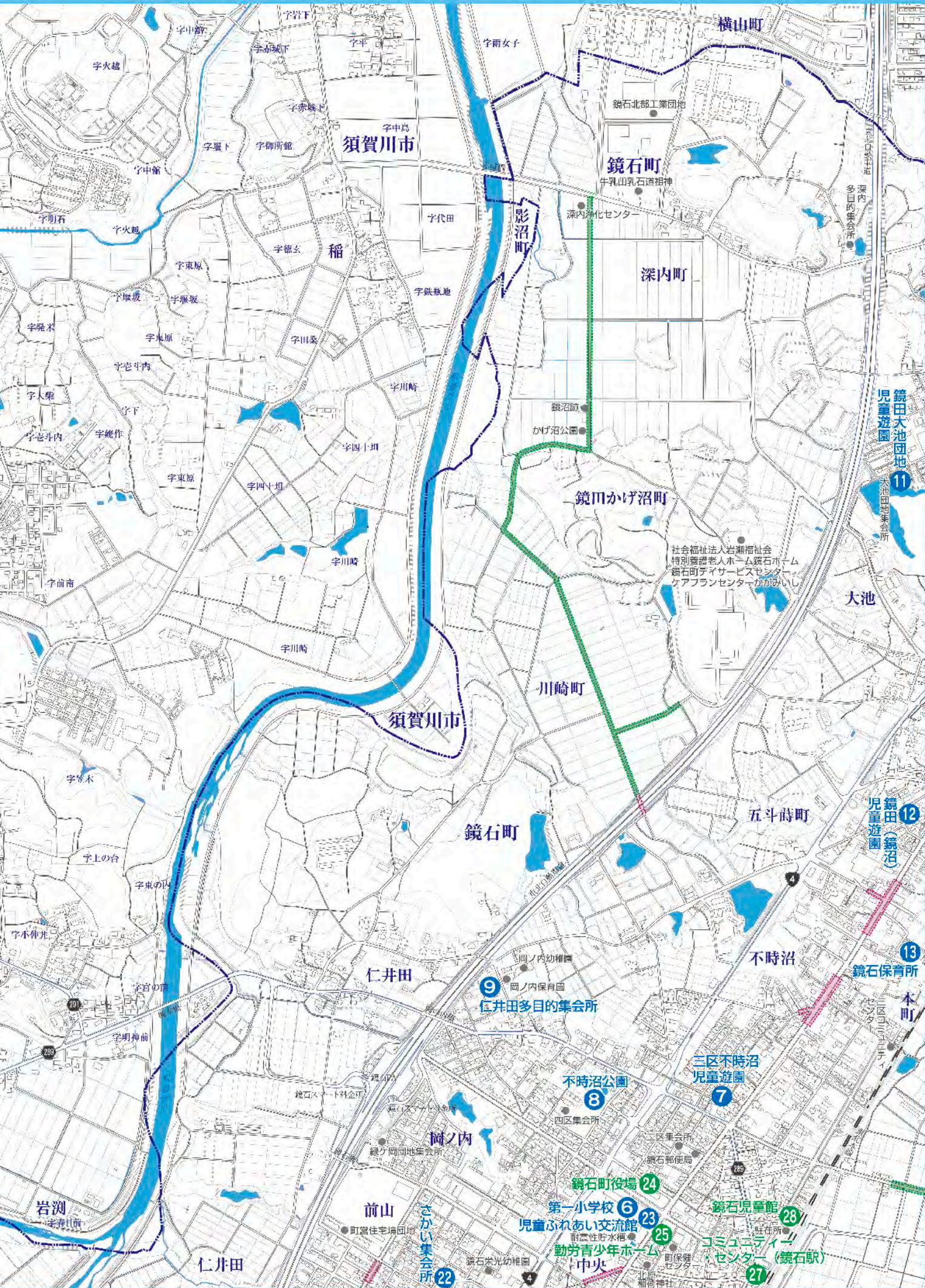
この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、月院発行の50万分1地方図、2万5千分1地形図及び電子地形図25000を使用した。(承認番号 平26情使、第244-194号)

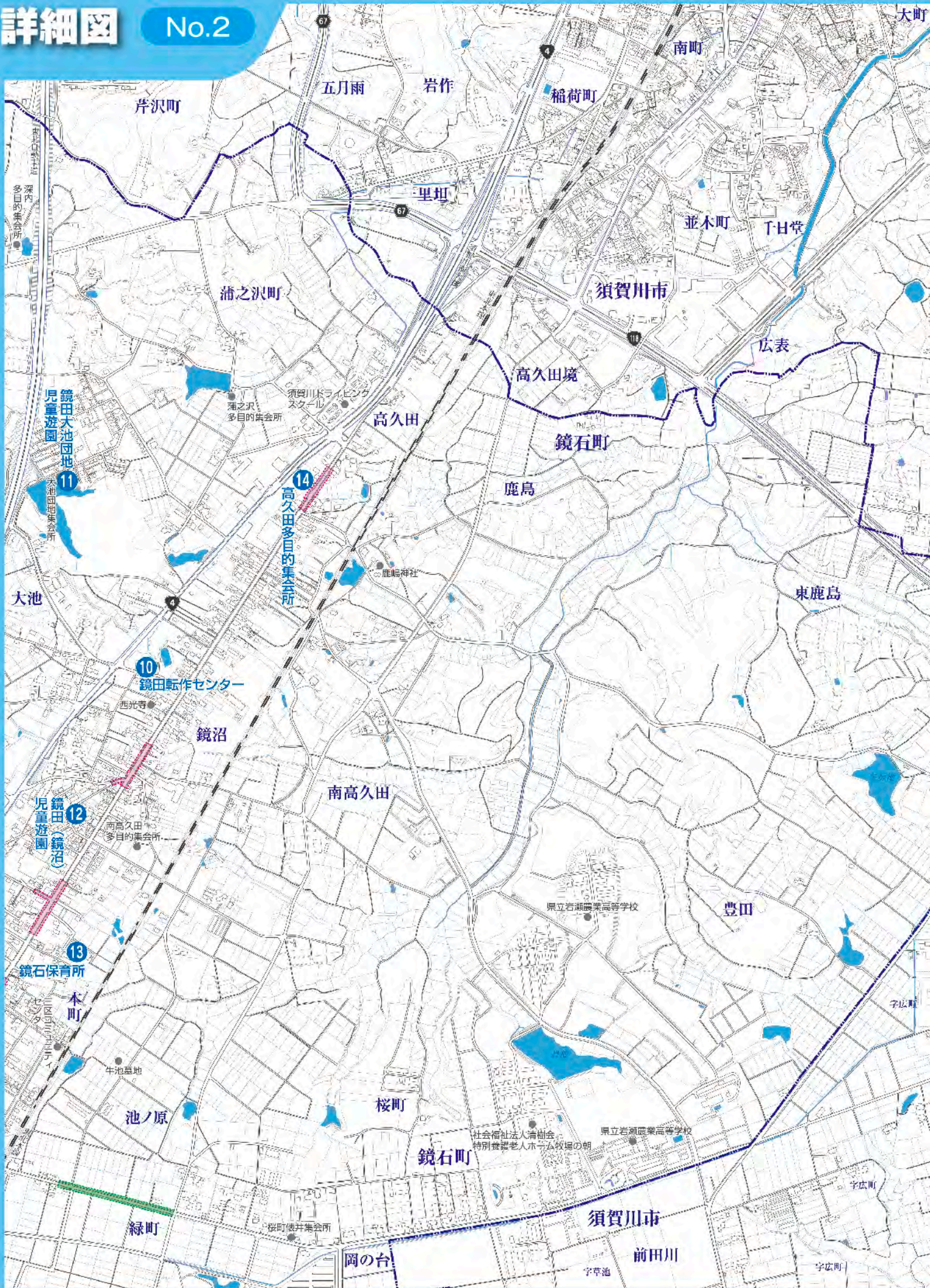


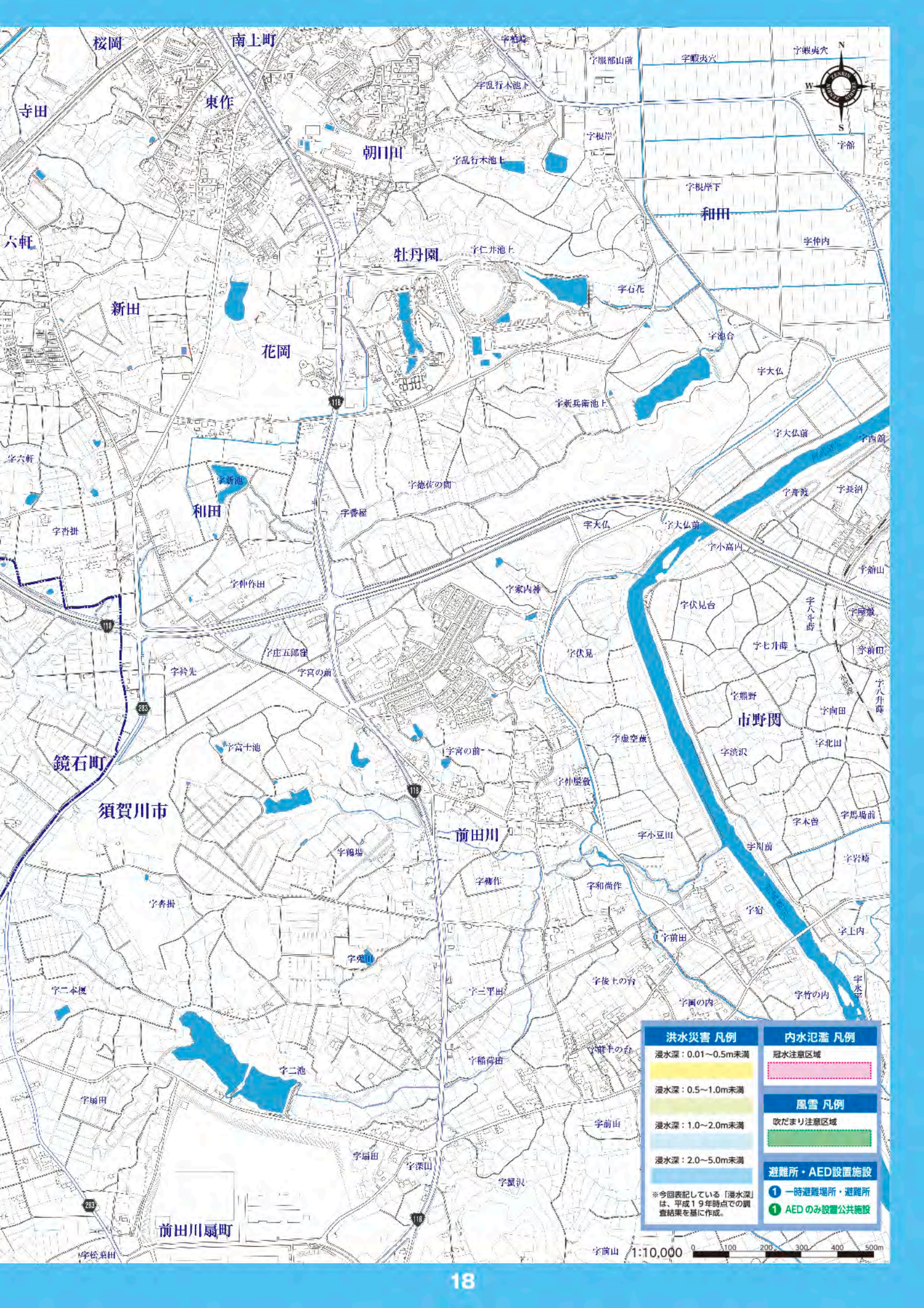


洪水災害 凡例	内水氾濫 凡例
浸水深：0.01～0.5m未満 浸水深：0.5～1.0m未満 浸水深：1.0～2.0m未満 浸水深：2.0～5.0m未満	冠水注意区域 風雪 凡例 吹だまり注意区域
※今回表記している「浸水深」は、平成19年時点での調査結果を基に作成。	避難所・AED設置施設 ① 一時避難場所・避難所 ② AEDのみ設置公共施設

0 100 200 400 500m 1:10,000



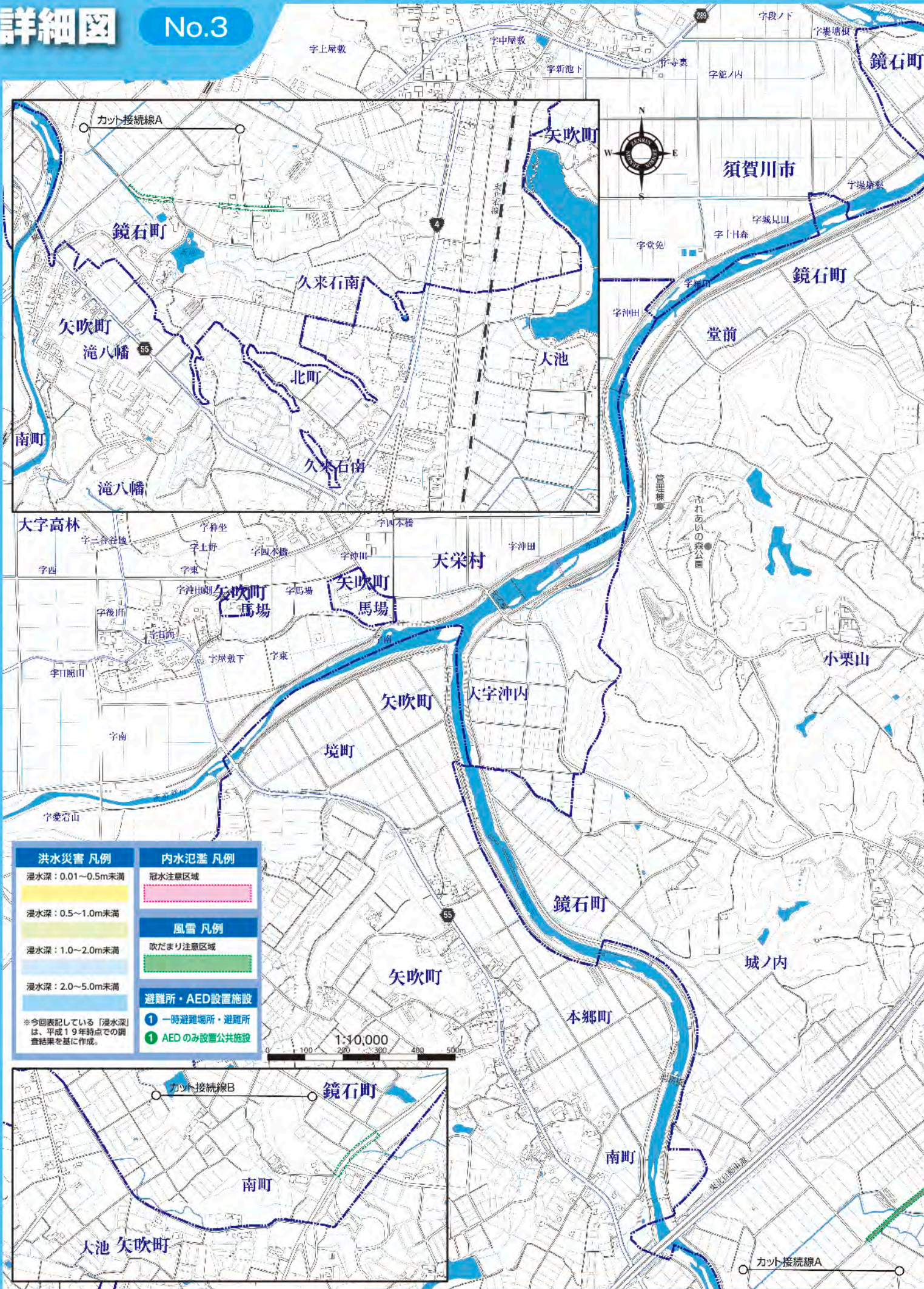




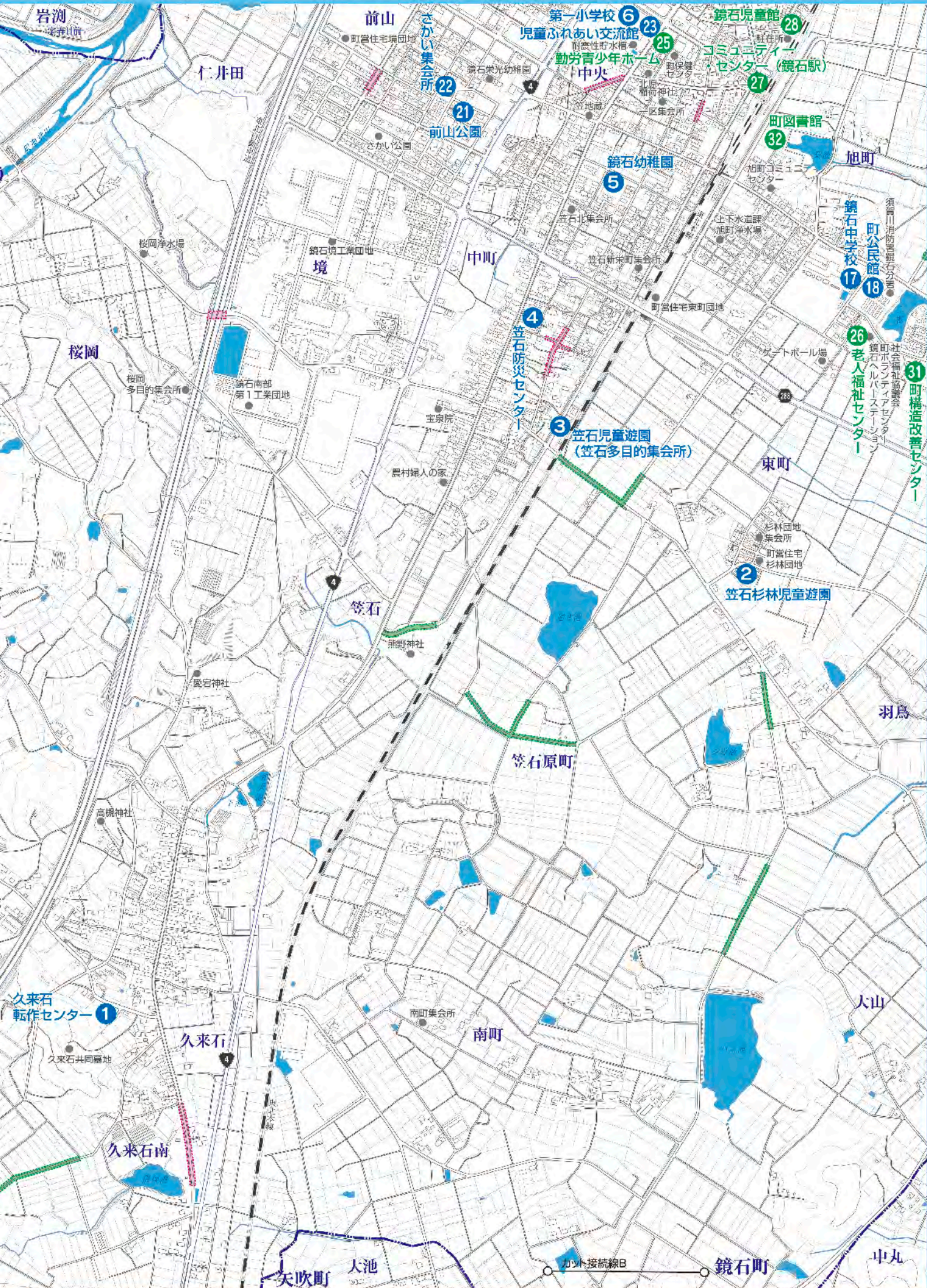
洪水災害 凡例	内水氾濫 凡例
浸水深：0.01～0.5m未満 	冠水注意区域
浸水深：0.5～1.0m未満 	風雪 凡例 吹だまり注意区域
浸水深：1.0～2.0m未満 	避難所・AED設置施設 ① 一時避難場所・避難所 ② AEDのみ設置公共施設
浸水深：2.0～5.0m未満 	

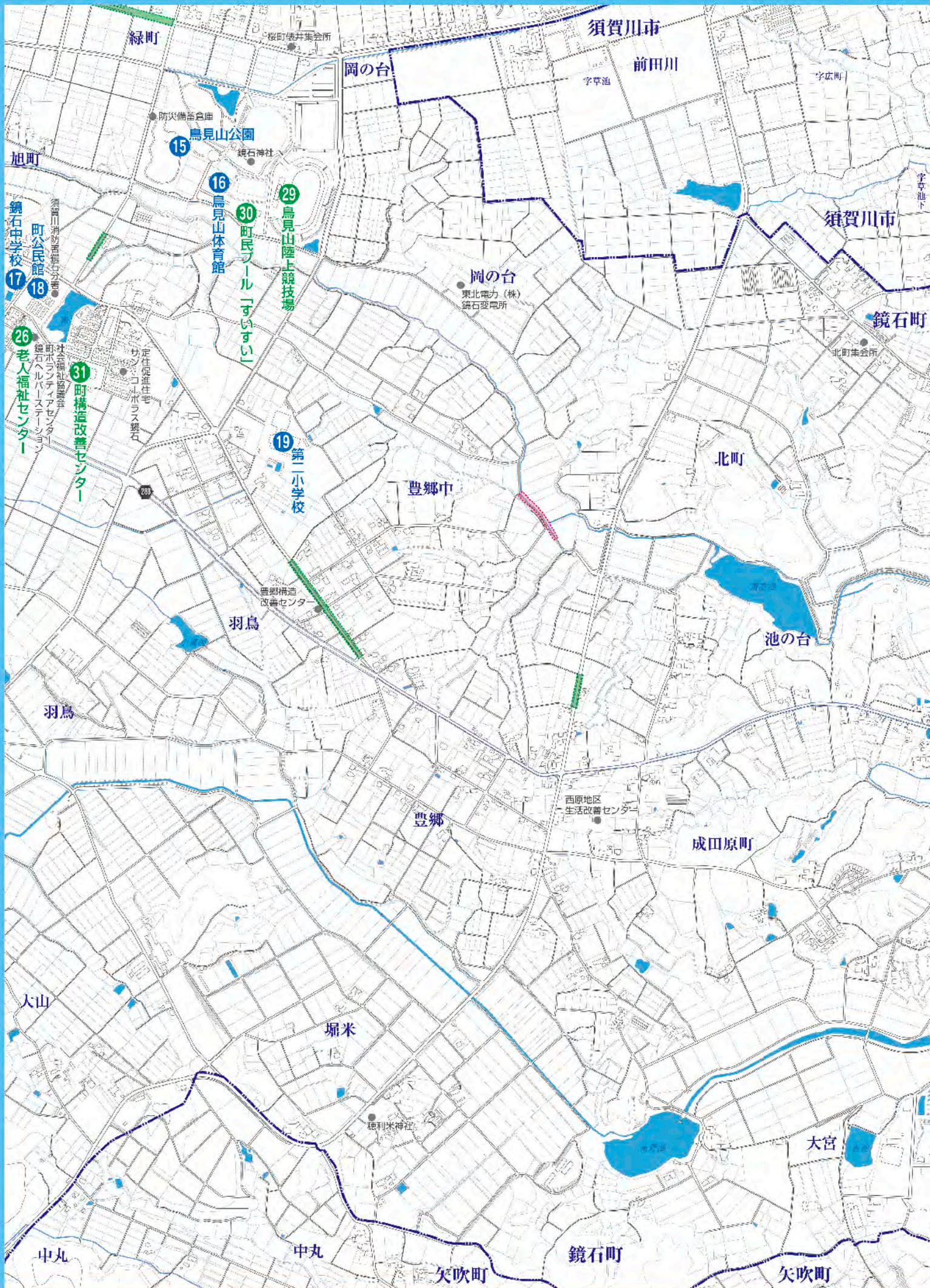
※今回表記している「浸水深」は、平成19年時点での調査結果を基に作成。

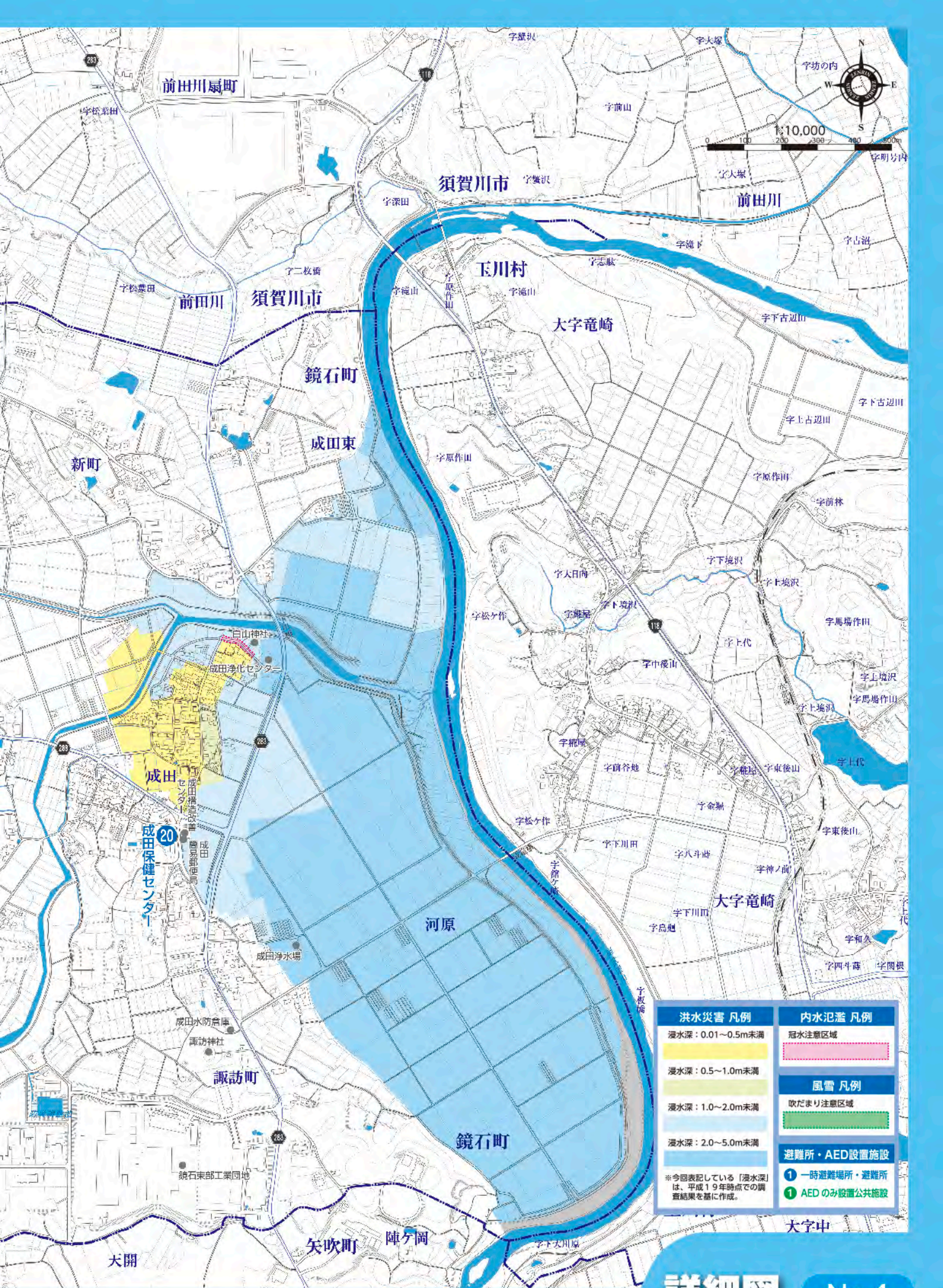
1:10,000 0 100 200 300 400 500m



洪水災害 凡例	内水氾濫 凡例
浸水深：0.01～0.5m未満 	冠水注意区域
浸水深：0.5～1.0m未満 	風雪 凡例 吹だまり注意区域
浸水深：1.0～2.0m未満 	避難所・AED設置施設 ① 一時避難場所・避難所
浸水深：2.0～5.0m未満 	② AEDのみ設置公共施設
※今回表記している「浸水深」は、平成19年時点での調査結果を基に作成。	







洪水災害 凡例	内水氾濫 凡例
浸水深：0.01～0.5m未満 	冠水注意区域
浸水深：0.5～1.0m未満 	風雪 凡例 吹だまり注意区域
浸水深：1.0～2.0m未満 	避難所・AED設置施設 ① 一時避難場所・避難所 ② AEDのみ設置公共施設
浸水深：2.0～5.0m未満 	

※今回表記している「浸水深」は、平成19年時点での調査結果を基に作成。

早めの避難があなたの命を救います

洪水時に堤防が決壊した場合には、氾濫水の勢いで堤防近くの家屋は破壊されたり流失したりする可能性があります。

そのようなときに避難せず家屋にとどまっていた場合には、人命に関わる事態の発生も予想されます。

洪水時には上流域も含めた雨量や河川水位情報などを早くから収集し、町からの避難情報などにも注意しながら、堤防が決壊する前には必ず避難が完了するよう早めの行動を心がけてください。

インターネットを利用したリアルタイム情報提供

全国の河川の「雨量」「水位」「河川予警報」等の情報をリアルタイムで提供することにより、近年頻発している大雨・集中豪雨による水害・水難時の迅速・的確な避難等が可能になります。

国土交通省「川の防災情報」

- ・パソコンから <http://www.river.go.jp/>
- ・携帯電話から <http://i.river.go.jp/>



福島県「河川流域総合情報システム」

- ・パソコンから
<http://kaseninf.pref.fukushima.jp/gis/>

本書の使い方

本書は、いずれ起こるかもしれない様々な災害に対し、事前に備えることを目的として作成しました。予測不可能な災害の被害を最小限にとどめるため、常日頃から内容に目を通し理解を深めていきましょう。

本書の特徴

本書は、災害時に持ち運びができるように冊子型として作成しました。通常時は、地図部分や「わが家の防災・緊急情報メモ」ページを開いた状態で、壁などにピン留めして掲示するか、ヒモなどでつるし身近に置き、緊急時に持ち出してご活用ください。

発行：鏡石町 (問い合わせ：総務課 0248-62-2111)

<http://www.town.kagamiishi.fukushima.jp/>

制作・著者：株式会社ゼンリン 郡山営業所

作成：平成27年3月